

四日市版コミュニティスクール報告書（令和3年度総括）

四日市市立 県小学校

校長 江藤 俊哉

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

- ① 開かれた学校づくりをめざし、地域・保護者とともに協働できる学校にするために運営協議会を設置し、様々な視点からの意見や考えを交流しながら、地域コミュニティーづくりを推進します。
- ② 教育活動を学校評価に基点を置いたものとします。そのために、これまでの学校関係者評価をより充実させ、改善に努め、保護者や地域の方々の思いや願いを反映した学校づくりを推進します。
- ③ 学校支援をはじめとして、様々な教育活動に保護者や地域の方々との活動を継続・発展させ、「地域とともにある学校」の推進を図ります。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

《地域連携花壇》

学校の正門両脇にある地域連携花壇は、学校・地域・保護者が協力して維持・管理をしています。今年度も6月と11月の年2回、全校児童と保護者・地域の方々と、約2000株の花の苗を植えました。花の苗を植えることに慣れていない子どもたちに参加された地域の方々や保護者から優しくアドバイスをさせていただきました。定植は1年生と6年生が一緒に行いました。地域連携花壇の定植をはじめて経験する1年生に対し6年生が手を支えて一緒に花を植える姿に周囲の大人たちも温かい気持ちになりました。日常的な水やりや草取りの作業は5・6年生の栽培委員会の児童や保護者、地域のボランティアの方が行い、花壇は1年中きれいな花で包まれて道路を行きかう人たちの目を楽しませています。



《学年人権活動》

各学年で年に一回、保護者と一緒に人権について考える学習を行いました。今年度はコロナ禍の影響もあり、保護者が子どもたちと一緒に活動に参加できたのは3つの学年（1、3、4年のみ）でした。

1年生は四日市市教育委員会の指導主事の方を講師としてお招きし、子どもたちが保護者と触れ合ったり、みんなで一緒に大きな絵を見て気づいたことを話し合ったりすることで、「自分とまわりの人たち」について考えることができました。他の学年でも、全「人権カルタ」の取組みやネットモラルについての学習会等、熱心に学習する姿が見られました。

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組みによる効果

今年度も、コロナ禍により、いろいろな行事等が制限される中、保護者や地域の方々にも本校の教育活動に対してご理解、ご協力いただきました。12月に実施した保護者アンケート「学校の教育活動に満足していますか」では94.8%（昨年度より-0.7%）の方から肯定的な回答をいただきました。また、児童アンケート「学校が楽しいですか。」の項目に「そう思う」「まあそう思う」と回答した児童の割合が95.9%と昨年度より2%増加しました。

学校運営協議会は5回行われ、委員の皆様からは『学校だより』や『ホームページ』等で子どもたちや学校の様子が詳しく発信されており、情報がよく伝わってくる。」「全てがコロナ前とはいかなないものの、コロナ禍において学校が対策を取りながらできる限りの地域交流を行っていることはありがたい。」「児童・保護者アンケート



で評価が低かった項目については、その改善に向けて創意工夫を行い全職員で取り組んでいただきたい。」等貴重なご意見をいただきました。児童が保護者や地域の方々に温かく見守られ、さらにより良く成長し、県地区のかけがえのない人材になることが期待されていると強く感じました。

3 今後に向けて

コロナ禍により以前に比べ子どもたちがゲストティーチャーをはじめ、地域の方々との関わる機会が減少しました。また、授業参観の中止もあり、保護者や地域の方々に学校で実際に子どもたちの授業の様子を見ていただく回数が少なくなりました。このような制限付きの学校生活の中で、ストレスや悩みを抱えた児童はいないか、小さなサインを見逃すことがないように、学校が保護者や地域と連携を図りながら、情報共有を密にし、つながりを大切にして、教育活動を進めることが大切です。これからも児童一人ひとりの思いを大切にして、お互いに認め合える学校づくりをめざしたいと思います。